

みずほCustomer Desk Report 2020/07/03 号 (As of 2020/07/02)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】				公示仲値	107.48
	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	GBP/USD	AUD/USD
TKY 9:00AM	107.37	1.1255	120.80	1.2467	0.6911
SYD-NY High	107.72	1.1302	121.44	1.2530	0.6952
SYD-NY Low	107.34	1.1224	120.78	1.2458	0.6902
NY 5:00 PM	107.48	1.1239	120.83	1.2469	0.6926

NY DOW	25,827.36	92.39	日本2年債	-0.140	0.00bp
NASDAQ	10,207.63	53.00	日本10年債	0.030	▲1.00bp
S&P	3,130.01	14.15	米国2年債	0.154	▲0.97bp
日経平均	22,145.96	24.23	米国5年債	0.293	▲1.73bp
TOPIX	1,542.76	4.15	米国10年債	0.668	▲0.66bp
シカゴ日経先物	22,360.00	120.00	独10年債	-0.4315	▲3.20bp
ロンドンFT	6,240.36	82.40	英10年債	0.1835	▲2.25bp
DAX	12,608.46	347.89	豪10年債	0.9420	1.00bp
ハンセン指数	25,124.19	697.00	USDJPY 1M Vol	5.39	▲0.29%
上海総合	3,090.57	64.59	USDJPY 3M Vol	6.15	▲0.07%
NY金	1,790.00	10.10	USDJPY 6M Vol	7.10	▲0.18%
WTI	40.65	0.83	USDJPY 1M 25RR	-0.60	Yen Call Over
CRB指数	140.60	1.46	EURJPY 3M Vol	7.65	▲0.22%
ドルインデックス	97.32	0.12	EURJPY 6M Vol	8.18	▲0.22%

東京	東京時間は107.37レベルでオープン。雇用統計を控え様子見ムードの中、終始、ドル円は同意に乏しい展開。107.40をはさんで上下10銭程度の狭いレンジでの推移となった。東京時間の安値107.34をつけた後は、じりじりと上昇し107.48レベルでクロス。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は107.48レベルでオープンし、午後に雇用統計を控えてこう着状態が続いた。107.44レベルでNYに渡った。ポンドドルは、1.2497レベルでオープン。公開された6月FOMCの議事要旨でFRBがYCCの導入に消極的であることが明確になったことを受けてポンドは買われ堅調推移。一時1.2527まで上値を伸ばしたが、正午付近に利益確定の売りが入り、1.2518レベルでNYに渡った。(ロンドントルフィー 00531 444 179 マルヒル)
ニューヨーク	海外市場のドル円は米雇用統計発表を控え、前日の米経済指標が良かったことや、ワケンに対する期待からドル売りが強まる一方、円売りをサポートされ、107.34-54での狭いレンジでの推移が続く。107.44でNYオープン。朝方は注目の米6月雇用統計で、非農業部門雇用者数変化が480万人増と2か月連続で大幅に増加し、市場予想も上回り、ドル円は107.57まで上昇する。しかし、失業率が予想程高くなかったものの、11.1%と引き続き高水準で、コロナ再拡大懸念から州によっては再び規制の導入に踏み切っているところも増加しており、今後は回復ペースが鈍化するとの見方にドル買い戻しが強まり、また、明日は独立記念日の振替休日で為替以外の金融市場が休場になることから、ユーロ圏をカサネる動きが強まり、ドル円は107.72まで戻す。しかしドル円も利益確定の売りが持ち込まれ107.46まで反落する。その後は前日の下院に続き上院でも香港国家安全法をめぐる中国制裁法案が可決され、トランプ大統領に送付されたとの報道が伝わったが為替市場の反応は限定的となり、狭いレンジでの推移が続く。107.48レベルでクロスした。一方、ユーロドルは米雇用統計結果発表を控え1.1302まで戻し、1.1286レベルでNYオープン。朝方は米雇用統計の結果を受けてリスク志向から一旦1.1297まで戻すが、週末を控え利益確定の売りが持ち込まれたことから下落し、海外時間に付けた安値1.1248を抜けると短期的なストップを付け1.1224まで下落する。午後は狭いレンジでの推移が続く。1.1239レベルでクロスした。(NY井上)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当: 田坂・松本 TEL:03-3242-7070 FAX:03-3211-5825 LDN 00531-444-179 NY 00531-113-682

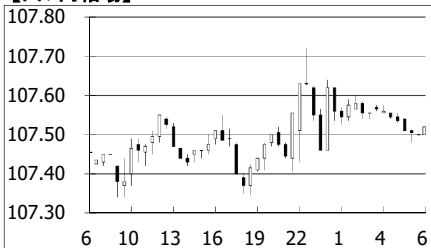
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
7月2日	21:30	米 非農業部門雇用者数変化	6月 4800k	3230k
	21:30	米 失業率	6月 11.1%	12.5%
	21:30	米 平均時給(前年比/前月比)	6月 5.0%/-1.2%	5.3%/-0.8%
	21:30	米 新規失業保険申請件数	-	1427k
	21:30	米 貿易収支	5月 -\$54.6B	-\$53.2B
	23:00	米 耐久財受注(前月比)・確報	5月 15.7%	15.8%
	23:00	米 耐久財受注(除輸送用機器)・確報	5月 3.7%	4.0%

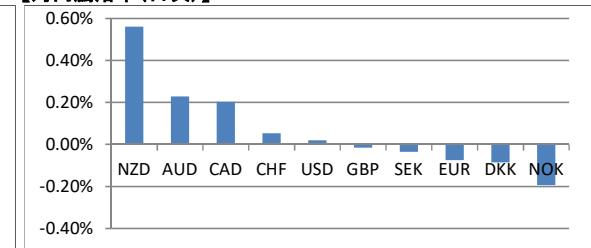
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
7月3日	10:30	豪 小売売上高(前月比)	5月 16.3%	-17.7%
	16:55	独 マークait PMI・確報	6月 45.8	45.8

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【マーケット・インプレッション】 バイデンxオバマ

かつての「オバマ大統領とバイデン副大統領」コンビを、「バイデン大統領とオバマ副大統領」というコンビで蘇らせることができるとするならば、バイデンの勝利はほぼ確定だろうという妄想をめぐらせているのは私だけではないだろう。ここでいう、オバマ副大統領とは、バラク・オバマ元大統領ではなく、ミシェル・オバマ元大統領夫人だ。今年の3月まではほぼトランプ一択状態だったといっても過言ではない米大統領選。新型コロナウイルスと「ジョージ・フロイド事件」への対応を誤ったことにより、足元の世論調査やオッズサイトはバイデン優勢へと逆転、激しい逆風が吹くトランプ陣営。だからこそ、大型景気刺激策などを必死にまとめ上げ、再びトランプ優勢の地合に逆転する可能性も充分にある。結果はまだ流動的である。しかし、このような状況を大きく変えるGame Changerがあるとすれば、それは冒頭に記したミシェル・オバマ副大統領候補選出だと考える。ダイバーシティが求められる昨今、トランプが人種差別や性差別で非難されている状況下の「非白人女性副大統領」というカードは強い。さらにミシェル・オバマとなれば、現在副大統領候補として有力視されているカマラ・ハリスやスーザン・ライスとは比較にならない知名度と人気を誇る。露出度低めキャラ薄めで「あまり見かけないおじいさん」というバイデンの弱点をすべてカバーしてくれるわけだ。とはいえ、彼女は自著『My Story』でも「今後政治活動はしない」と名言しており、今のところ可能性はわずか数%。かねてより彼女にラブコールを送っているバイデンが、もし彼女を口説き落とすことができたとするならば、おそらくバイデン勝利はほぼ確実となるだろう。私自身もそうだが、親しみやすい庶民派ファーストレディだった彼女のファンは世界中にいるのだ。しかしそうなった場合の金融市場の反応には注意が必要だ。これだけ米景気が急速に後退している状況下で、民主党が金融市場で警戒されているような株安を喚起するような政策に踏み切る可能性は低く、実際に民主党勝利＝リスクオフとはならないと個人的には考えている。しかし、大統領選後の勝利宣言を聞くあたりまでは「トランプ優勢＝リスクオフ」という公式で市場が反応しつづけた前回の大統領選同様に、今回も当方は「民主党＝リスクオフ」といった公式で反応するだろう。今月1日、バイデンは、副大統領候補を8月上旬までに選出すると明らかにした。「バイデンxオバマ」コンビは蘇るのか。マーケットの波乱には注意したい。(たさかまりえ)

■今週のドル/円 見通し

田中	竹内	筒井	加藤	関	牛島	山岸	田坂	尾身	上野
ベア	ベア	ブル	ブル	ベア	ブル	ベア	ベア	ブル	ベア
山口	小野崎	玉井	原田	大庭	高村	松本	浅見	大谷	小林
ベア	ブル	ベア	ベア	ブル	ベア	ベア	ベア	ベア	ベア

ブル	ベア
6	14